

倉敷市「自然・どうぶつ共生マップ」

岡山県倉敷市 × 一般社団法人データクレイドル まちケア運用チーム

倉敷市の課題

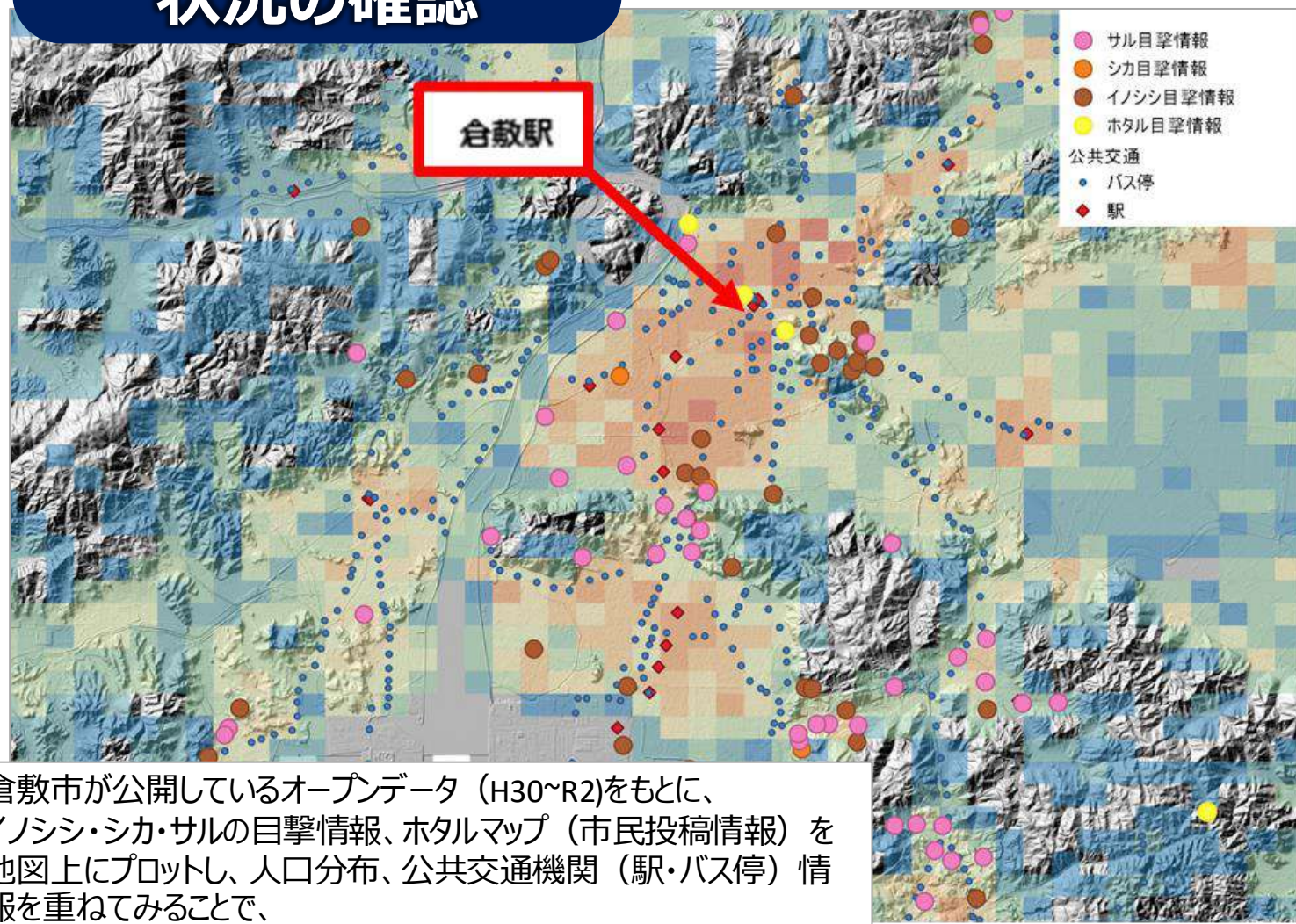
New Normal時代において 人と動物が持続的に共生できる地域社会のあり方

地域に存在する様々な動物たち。「自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷」にとってこれからの時代にふさわしい動物との関わり方はどういったものなのでしょうか。

この地域課題は生物多様性と生態系の保全の観点を持つ関連で、SDGsのゴール15（陸上生態系の保護、回復と持続的利用の推進、持続可能な森林管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および転換、ならびに生物多様性損失の阻止を図る）に寄与します。



状況の確認



倉敷市が公開しているオープンデータ（H30～R2）をもとに、イノシシ・シカ・サルの目撃情報、ホタルマップ（市民投稿情報）を地図上にプロットし、人口分布、公共交通機関（駅・バス停）情報を重ねてみることで、
○市街地付近でもイノシシ・シカ・サルが目撃されていること（想定よりサルが多い）
○市街地付近でホタルの投稿情報があること を確認

倉敷市生物多様性 地域戦略 (平成26年3学策定)

【基本方針】

知る：倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしのつながりを把握する
守る：身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全、回復、再生する
使う：生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する
つくる：倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う

倉敷市鳥獣被害防止計画 (令和2年度～令和4年度)

【主な取り組み】

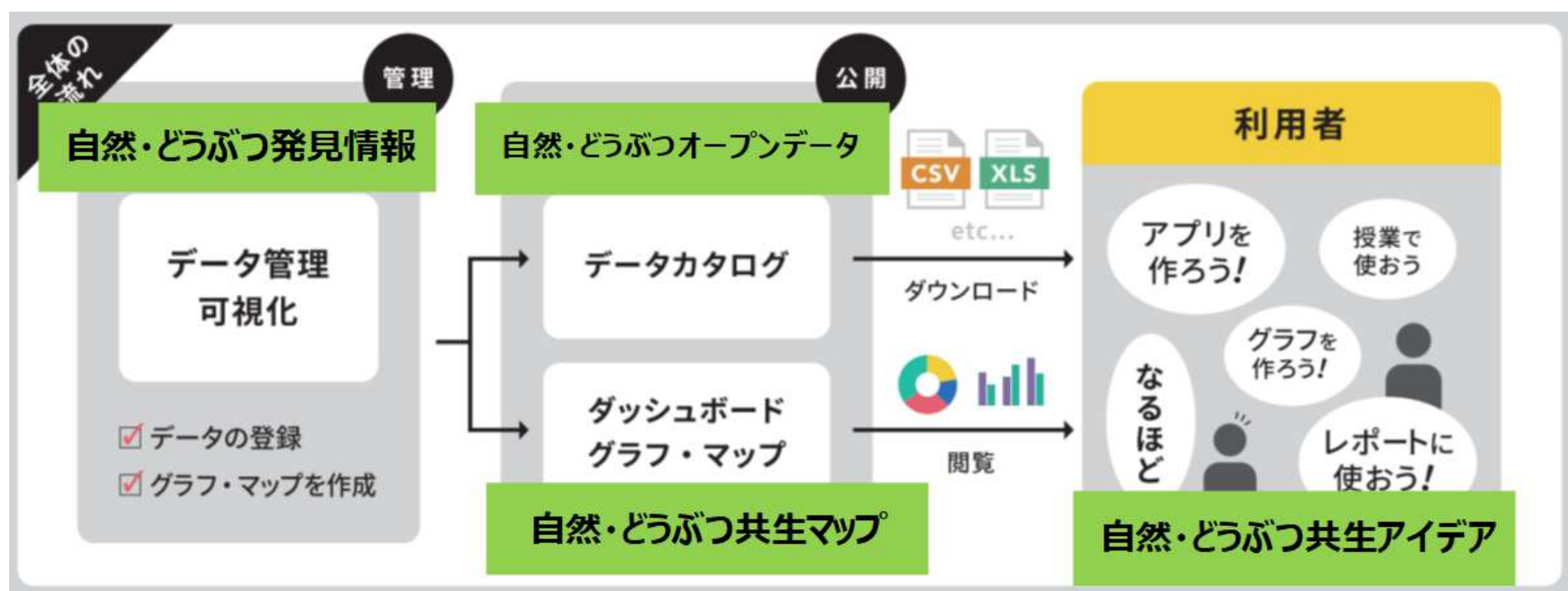
個体数管理
：捕獲・狩猟者の確保・育成、ICTの活用
被害管理
：防護柵設置費用助成・指導助言
生息地管理
：環境整備及び普及啓発

市民としてできることを考えた！

- ①「知る」ことから始める
- ②自然や動物と共生できる人づくり、地域づくりへつなげる

アイデアの内容

「自然や動物との共生」について考え、話し合い、共有する取り組みの積み重ねを「ひと・自然・どうぶつが共生するまち」につなげる



目的	ツール・方法	アイデアの実現に必要な資源		
		ヒト	モノ	カネ
市民参加の「情報」集め	自然・どうぶつ発見情報	市民、学生等投稿	「まちケア」活用	市民協働事業提案
考える「きっかけ」づくり	自然・どうぶつ共生マップ	弊社管理		
共有する「場」づくり	自然・どうぶつ共生アイデア	市民、学生等検討	倉敷市オープンデータプラットフォーム活用	倉敷市オープンデータプラットフォーム運営費

既存のシステム資源（倉敷市オープンデータプラットフォーム、まちケア）を活用し、市民や学生、企業等のSDGsの取り組みとの連携など、多様な方々とのパートナーシップで実現を目指します。